

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 21 日

<p>【事業所理念】 笑顔で穏やかなりし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○利用者一人一人の日々の様子等を具体的な内容で個別に記録していく。 → 記録の書き方の勉強会を行いながら記録してもらうように伝えている。 ○利用者一人一人のプライバシー等に配慮しながらの介助を行っている。 →おかしと思うことは職員同士で声掛けを行うようにしているが、職員の意識が足りなく配慮できていない時もみられる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、以前中学校の寮として活用されていた建物を改修して使用している。事業所の隣には、障がい者の就労継続支援事業所があり、園庭の避難時等の活用の話し合いをしている。管理者は、事業所理念や行動目標の実現に向け、職員会議の中で勉強会を実施したり、日々の業務の中で職員と話し合いをしたり、利用者や家族の要望にも柔軟に対応するなど、利用者が笑顔で、穏やかな生活を送れるよう支援している。また、現在のコロナ禍において、外出や面会制限があるものの、日常的に敷地内の散歩や少人数でドライブをしたり、窓越しやリモート面会にも対応したり、多くのレクリエーションを取り入れたりするなどの工夫をしている。さらに、2年前に交代したフットワークの軽い代表者は、毎月の職員会議に参加するほか、頻りに事業所に来訪して職員と話しをする機会も多く、職員からの要望で新たな電化製品などを購入したり、Wi-Fi環境を整備してくれたりするなど、働きやすい環境づくりに努めてくれている。Wi-Fi環境の整備により、利用者はユーチューブを見ながら体操する機会も増え、利用者の心身機能の維持にもつながっている。加えて、管理者は年1回の職員と個別面談を実施するほか、個別での面談や相談にも応じ、職員から意見を聞くことができおり、職員も環境整備や希望休にも応じてくれるなど、働きやすいと感じている。</p>
-------------------------------	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話で聞くようにはしているが全職員が全員にはできていない人もいる。	○	/	◎	日々の生活の中で、担当職員を中心に利用者から思いや意向の聞き取りをしている。要介護度の高い利用者も話すなどの意思表示をすることができ、思いなどを確認している。また、入居時や電話連絡時などを活用して、家族から希望などを聞くことができている。聞き取った内容は、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などのアセスメントシートに記載し、把握している。現在のコロナ禍において、行事や外出する機会が減り、職員は利用者とかかわる時間が増え、話しや相談をする機会を活用して、新たな情報を聞くことも多い。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族から聞いたり日々の関わりから察し検討するようにはしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時、面会時等に話を聞くようにはしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2・C-1-2シートを利用し本人の思いを聞いて記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員によっては思い込み決めつけになっていることもあるが本人の思いを大切に関わりをもってしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前にケアマネ担当の方、家族から聞き取りは行っている。	/	/	◎	入居前に、センター方式のアセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴やできることなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所や介護施設、病院のほか、介護支援専門員から情報を得ることもある。家族とのかかわりが希薄になっていることもあり、事前に聞いた内容が違い真逆の場合もあり、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞いたり、観察などから確認したりすることもある。また、アセスメントシートの情報は、3か月に1回の介護計画の見直し時に内容を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	D-1・D-2・C-1-2シートを利用し話を聞き、関わりながら現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中から把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何かについて職員間で送りをしみんな考えている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人の状態の記録を共有することで把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送りカンファレンス等で話し合いは行っている。	/	/	◎	毎月、事業所全体で夜間帯に職員会議を開催するほか、別の日にユニット毎にカンファレンスを実施している。退院時など必要に応じて、管理者等とその日の出勤職員で話し合いをすることもある。また、月1回の医師の往診時に意見を聞くほか、家族には電話連絡時や来訪時に意見を聞いて職員間で話し合い、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。また、課題解決ができない場合もあり、職員が事前に管理者に対応を伝えたくて試行し、その結果も報告するなど、課題解決に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人が何を求めているかを関わりの中から引き出しカンファレンス等で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	課題を明らかにしそれに沿ったケアを全員はできていない職員もいる。	/	/	/	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の視点に立った内容にしている。	/	/	/	担当職員は、利用者から「出かけたがたい、外食したい」などの希望を聞くほか、家族から「お任せします、受診介助の依頼」などの意見を聞き、介護計画に反映している。また、医師や看護師などの意見を踏まえて、ユニット毎のカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人家族と話し合い意向をもとに作成している。	/	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その時に応じてその方にあった暮らしをさせている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	コロナ禍のため関わっていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有できるようにしている。	/	/	/	職員はカンファレンスの中で、介護計画の内容を話し合うほか、個別の介護記録の上部に介護計画や留意事項を印字し、記載時に確認できるようにしている。また、介護記録は24時間で時間帯毎にサービスの実施内容のほか、本人の状態や言動、特記事項等を記録し、発した言葉などの詳細まで記載されている。職員の気づきやアイデアも出され、介護者の考察等に記録を残したり、カンファレンス等で伝えたりしている。中には記録が苦手の職員もおり個人差が生じているため、継続して記録の書き方の勉強会を実施している。さらに記録には、日誌や個別の介護記録など、詳細な記録の重複部分が見られるため、重複した記載の有無の必要性を職員間で検討したり、様式自体を簡素化したりするなど、職員の負担軽減につながることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに添ったケアを実践し記録を取ることで日々の支援につながっている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	具体的内容を個別に記録し日々の暮らしの様子がわかるよう記録しているが職員の中ではできていない職員もいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録し職員間で共有はしているが完全にはではない。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで見直しを行っている。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月職員会議やユニット毎に実施するカンファレンスの中で、担当職員を中心に利用者の現状を確認し、職員間で話し合いモニタリングをしている。あまり変化のない利用者については毎月の現状確認はしていない。また、介護計画の更新時には、アセスメントシートの情報も更新し、新たな介護計画の作成につなげている。さらに、退院時には計画を1か月で見直すほか、大きな変化が見られた場合には、その都度計画を見直し、現状に合わせた介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員間で状態報告を行い確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後状態変化時には現状に添った計画の見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	何かあるときにはその都度話し合いを行っている。	/	/	/	事業所全体で、日程調整の上で夜間に、代表者も参加して職員会議を開催し、職員間で話し合いをしている。夜勤職員以外は会議に参加することができており、参加できなかった職員には、後日会議録を確認してもらうほか、口頭でも伝えている。また、利用者の退院時など、必要に応じて、その日の出勤職員と管理者等を交えて、話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	みんなの意見を聞けるように声掛け等を行っているが会議の場ではなかなか意見が聞けていない。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	ほぼ全員参加できている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	記録を残すことにより全員に伝わっている。口頭でも伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	伝達事項欄に記入口頭で伝えることにより共有できている。	/	/	/	朝・夕の申し送りを行っているほか、日誌等を出勤時に職員は確認し、確認後には押印して、確実な伝達につなげている。また、日誌の下部分には、伝達事項の欄があり、重要事項の記載があり、出勤時にも口頭で確認をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送り順に出勤者にも伝えることにより伝達できている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛け会話の中からしたいことを把握し実践に結び付けている。	/	/	/	職員は、利用者から「外出・外食をしたい、パズルをしたい」などのしたいことを聞き、可能な範囲で対応している。日頃から職員は、「入浴の準備をしましょう、食べたい物はないですか」などの声をかけ、利用者と一緒にしたり、自分で選択したりするなど、決定できる支援に努めている。また、レクリエーションや体操など、何か一緒にする時は全体での声かけのみに留まることなく、利用者一人ひとりに職員が声をかけることで、利用者の顔が微笑みのある表情に変わったり、「そんなんせん」と普段参加しなかった利用者が参加するようになったりするなど、雰囲気づくりをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	まず何をしたいかどうしたいか等の声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できるような声掛けを行いやりたいことをしてもらうようにしているが一部の職員はできていない日もみられる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ご自分のペースで生活されているがタイミングが難しい時間帯もある。	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔が見られるような声掛けを心掛けている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情から読み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会等で学び、声掛け等注意している。	/	/	/	職員会議時に、毎月の勉強会を基本として開催しており、人権や尊厳などをテーマに取り上げて、職員は学んで理解している。前回の目標達成計画に、「利用者一人ひとりのプライバシー等に配慮した介助」を掲げ、職員は意識し利用者へ声かけをするほか、居室の入室時のノックや声かけができるように改善され、気になることがあれば注意し合うことができるようになってきている。また、適切な対応ができていない場合には、管理者から該当職員にさりげなく伝えたり、職員会議等を活用して、全ての職員に注意喚起するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	さりげない言葉かけをし心掛けて対応しているが職員によってはできていない日もある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けを行い配慮しながら行っている職員が増えている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室に入る前にはノックをし声掛けを行って入るようにしているができていない職員もいる。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報等に十分気を付け理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一緒に何かしてもらったことには感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	調理や縫い物などを手伝ってもらった場合には、職員から「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。レクリエーション時に、パズルなどができない利用者、他の利用者が、「こうやってやるんよ、一緒にやるよ」と声をかけて一緒にやったり、歩行が困難な利用者、「急に立たれんよ、大丈夫」などの気づかいをするなど、支え合う場面も見られる。また、他の利用者の居室に間違えて入ってトラブルになりそうな場面では、職員が「ごめんね」と伝えて、間に入って話しを聞くなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	トラブルのないように気を付けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関わりが持てるように作業を一緒にしてもらったりレクをするなどの支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうときには間にはいるようにし特に大きなトラブルは見られていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	把握できていないことが多い。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	美容室に行かれていた方もおられる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り等ご家族と出かけている方もおられるが、今はできない状態となっている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ禍の為気軽に誰でもとはいかないがリモートで面会されている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	今はできていないが園庭散歩を行っている。	×	○	○	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に敷地内を散歩したり、中庭にある小さな畑で野菜づくりをしたり、少人数で車から降りずにドライブをしたりするなど、気分転換ができるよう努めている。コロナ禍以前は、お弁当を持って花見に出かけたり、重度な利用者も一緒に車でドライブして様々な場所に出かけたりすることができていた。また、車いすの利用者の方が、屋外に出て散歩や外気浴をすることが多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態を見ながら皆と同じように過ごせるように取り組んでいる。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望把握し、家族地域の人々と協力しながらはできていないが個別で出かけられることもある。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	一人一人にあった支援に努めるようにしているが一部の職員がまだできていない。				毎日のラジオ体操のほか、ユーチューブを見ながら、利用者と一緒に見よう見まねで、様々な音楽体操を取り入れ、心身機能の維持に努めている。前回の訪問調査時から、寝たきりから要介護度が改善した利用者は、継続して近距離であれば自ら歩行できる状態を保つことができていた。また、利用者自身でできることは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	その人にあった状態を把握し日常生活の中での維持向上が図れるよう努めているが全職員が取り組めていない。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	危険でないことには見守りを行い一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	声掛けや会話の中から楽しみごとや役割を把握している。				洗濯物干しやたたみ、調理、お盆拭き、テーブル拭きなどの役割は、利用者同士が取り合いになることがあるので、順番に担ってもらっている。男性利用者も、ゴミ出しや掃き掃除を進んでしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	食事の準備片付けなど出来る事をやってもらっている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	できていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援はできている。				以前は化粧をしていた利用者もいたが、乳液や髪にピン止めをつけたりする程度となってきている。男性利用者は、声かけや準備で、自ら髭剃りをする利用者もいる。要介護度の改善した利用者は、着たい物を購入しておしゃれを楽しむことができている。また、食べこぼしなどの汚れが見られる場合には、トイレに行った時に着替えてもらったり、「汚れたままでいい」と言う利用者には、夜の着替え時に交換して、洗濯をしたりしている。また、職員が同行して理美容室に出かけて、身だしなみを整えたり、重度になっても着替えなどの身だしなみの支援ができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分の好きなようにされている方もおられる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考え本人の思うように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その人らしさを大切に季節にあった支援をしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	プライドを大切にさげなくカバーしている職員もいる。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望される店に行かれていた方もいるがコロナ禍のため行けないこともある。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身だしなみに気を付け支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				各棟の職員が、1年おきの順番で献立を作成している。利用者の食べたい物などを聞きながら、職員は1週間分の献立を立て、まとめて買い物に出かけている。コロナ禍以前は、利用者も一緒に買い物に行くことができていたが、現在は自粛している。各ユニットで2品のおかずづくりなどの分担をし、利用者に調理やお盆拭きなどを手伝ってもらいながら職員が調理をしている。利用者の状態に応じた、刻みなどの食事形態にも対応している。また、茶碗や湯呑みなど、利用者の使い慣れた物を使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、介助や声かけをしながら、同じ物を食べることができている。また、日中もリビングを兼ねた食堂で過ごすことが多いため、重度な利用者も調理の音や匂いを感じることができている。栄養士からのアドバイスを受けることはできていないものの、職員間で話し合い、バランスが取れた食事となるよう配慮している。さらに、誕生日には、いなりやちらし寿司など、利用者の食べたい物を提供することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	できる方には調理片づけを一緒にしてもらっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒にしてもらったら感謝の言葉を伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人家族から聞き取り把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の野菜等を使ったり郷土料理を出すなどの工夫をしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	その人に合った食事形態にしている。その都度見直しもやっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものあったものの使用をされている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさげなくやっている。	○	職員も同じメニューと一緒に食べながら見守り介助を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	日中は食堂でみんなで過ごしている為伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量をチェックし食べられない方にはほかのものと対応を行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分補給の回数を増やすことにより脱水予防を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は職員が立てている。バランスがとれた献立になるよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	新鮮な食材を使い衛生管理に努め食中毒の予防に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会・研修等を通して理解している。				年1回勉強会のテーマに取り上げて、職員は口腔ケアの重要性について学んでいる。毎食後、利用者は食堂にある洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアをしている。また、1日3回の口腔ケア時には、全ての利用者の口腔内の状況のチェックをすることができている。また、義歯の不具合や、「痛い」などの訴えがある場合には、歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	一日三回食後のチェックを行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	勉強会を通して正しく学び日常の支援に繋げている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できない方には声掛け介助を行っている。一人一人声掛けを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後口腔ケアを行って頂き清潔に保たれている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに歯科受診の対応をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで座っての排泄を行っている。				介護記録の「尿・便」の欄にチェックし、職員は排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を基本として、職員は声かけや誘導をしながら、おむつからリハビリパンツ、リハビリパンツからパッド等に改善された利用者もいる。おむつなどの排泄用品の使用時には、職員間で適性を話し合うほか、利用者や家族と話し合いながら使用している。また、重度な利用者には、2人体制で排泄介助をする場合もある。さらに、事業所では体調不良等で服薬をしている利用者もいるものの、体操や散歩などで身体を動かしたり、乳製品を摂取したりすることで、便秘等の防止にも努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	理解できていない職員もいる				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表を記入することで把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	食事前後にトイレに座る習慣を実践している。その都度対応を行っている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	散歩をしたり乳製品を取り入れるなどの工夫をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握できている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	御家族ご本人と話し合いながら支援を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態に合わせて使い分けをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品を摂ったり、散歩、体操、体を動かす支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	ご自分のペースで入浴されている方もおられる。		◎	○	各棟で毎日3人ずつ午後から入浴することができ、利用者は週に2~3回入浴することができている。以前は、夜間の入浴希望の利用者がおり、対応することもあったが、現在希望する利用者はいない。湯の温度や湯船に浸かる時間など、利用者の希望に対応し、ペースを合わせた入浴支援ができている。中には、自分のお気に入りのシャンプーやボディソープを使用している利用者もいる。また、利用者1対1となる入浴時には、利用者の意向を聞くことも多い。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人一人にあった入浴方法を支援し安心して入浴行えている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず話をして気持ちを良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いをせず話をしたり日を変えて対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い状態を確認し入浴後には水分補給をもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録を取り睡眠パターンの把握ができています。				介護記録の24時間の介護内容の記載欄に睡眠状況を記録し、パターンを把握している。以前寮として使用していた建物を改装した事業所は、利用者の状況確認に時間を要するところもあるため、夜勤職員は1時間に1回、各居室の見回りをしている。トイレにはセンサーを取り付け、使用時にはセンサーが感知し、職員が分かるよう工夫している。また、日中の作業レクリエーションや体操などの活動量を増やし、利用者が夜間安眠できるよう努めているものの、医師と相談しながら眠剤等を服用している利用者もいる。中には、昼夜とも丸1日眠らない利用者もあり、夜間に自室を間違えて他の利用者の居室に入ってしまうこともあるため、食堂でテレビを見てもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れるような日中の取り組みを行っている。作業レク等。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師との相談・連携をし支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に居室に行き休めている方もおられる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話をかけてあげ話をされている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方でしようとする方には手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙を渡し読んでもらったり読めない方には読んで伝えたりするが返事は出されることはない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会時等話をされている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	今は移動販売の利用しかできていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近くにはお店がないためスーパーに職員と行っているが今は行けていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に話をしその都度本人と話し合いもしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納長のサインをもらい報告の方法などルールを明確にしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	御家族ご本人の希望に沿うような対応を行っている。	◎		◎	現在コロナ禍において、外出や外食の要望には応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、町内や隣市への病院受診は、職員が同行受診の対応をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	コロナ禍のため自由に出入りをご遠慮してもらっている。	◎	◎	○	玄関の入り口にはベンチを配置している。周囲には小さな菜園や自動販売機を設置している。今年は町内で七夕まつりの開催がなく、利用者に雰囲気味わってもらうため、玄関には大きく「ゆうなぎ」の文字や飾りを作成し、飾っている。また、玄関にはコロナ禍の対策のため、自動検温装置を設置している。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な馴染みのあるものを置くことにより住まいとしての心地よさがある。	○	○	○	事業所は、以前中学校の寮として活用されていた建物を改修している。共用スペースには限りがあるものの、日中、利用者は食堂を兼ねたリビングで、レクリエーションやユーチューブを見て体操などをしながら過ごすことが多くなっている。廊下には、長いすや車いすが置かれているほか、壁には利用者と一緒に作ったちぎり絵や季節の飾り付けなどが飾られている。また、利用者と一緒に清掃を行うほか、適度な換気もされ、清潔保持をしている。また、水槽で小さな亀を飼育している。屋外には小さな菜園があり、利用者と一緒に野菜などを育てている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	時間で換気をしたり、掃除等も時間を見つけて行っている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとに貼り絵等を利用者さんと一緒にして壁に貼っている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いつでも座れるようにベンチがいくつか色々なところに置いてありそこに座られている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテン、ドアにて仕切られてある。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前に使用されていたお茶碗湯呑を持ってこられたり写真を飾られている。	○		◎	居室には、洗面台やエアコン、ベッドが備え付けられている。馴染みの物などを持ち込むことができ、タンスやテレビ、仏壇などを持ち込み、利用者に合った居室づくりをしている。1日ごとに利用者と一緒に清掃をしている。また、頻繁にベッドの配置などの模様替えをする利用者もおり、職員は快く対応をしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室トイレ等場所がわかるように表示がしてあり、それを見ながら目的の場所に行かれている。			○	利用者にトイレなどが分かりやすいよう表示しているほか、居室は遠くから見ても分かりやすいように、三角の立体で名前を表示している。また、食堂を兼ねたリビングには、ハサミなどの危険な物は置かず、目につく場所に家庭にあるような、テレビのリモコンやティッシュなどを置いている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険なものは目につかない場所に置き、必要な時は職員が見守り声掛けを行っている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	家庭に置かれているものが目に付くところに置いてあり自由にとれるようになっている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関居室等自由に出入りできるようになっている。	◎	○	○	事業所では、日中玄関を施錠しないことが通常となっている。コロナ禍で面会制限があるものの宅配などの業者が普通に入ってくるため、玄関前にはバーを置いて周知している。玄関内にはセンサーが設置されており、利用者が外出しようとする場合には、職員は分かりやすくなっている。家族等には、日中玄関を開放していることを説明し、理解を得ている。また、夜間は防犯のため、18時から7時まで施錠をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	センサーが取り付けありセンサーの音が鳴ると確認をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	いつでも見れるようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行ったり手を握ったりして状態を確認し記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かあれば主治医や毎週ナースチェック時に相談できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでのかかりつけの病院を受診されている方もおられる。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	御家族ご本人の希望されるように支援されている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院へ受診したり何かあればご家族に連絡をして状態報告をその都度行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	何か変わったことがあればナース時に相談をしドクターに伝えてもらい支持を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医院にいつでも相談できる体制になっているため、連絡しすぐに対応できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月一回の往診、週一回の看護師チェック受けることで早期発見にもつなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋がいつでも見れるようになっているので確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	日付名前いつの薬かを声に出して確認し服薬してもらっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	何かあればドクター・薬剤師にすぐ相談し確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態変化の記録を残し、相談し状態の報告を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に応じた用紙に記入することにより共有ができています。	/	/	/	事業所には、「ゆうなぎに於ける看取り指針」があり、入居時に利用者や家族に細かく説明し、現時点での希望や同意を得ている。重度化やご飯が食べれないなどの状態になった場合には、利用者や家族、医師などの関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所として、多くの看取り介護を経験しているものの、家族等が看取りを希望していても、いざという時には病院搬送等に意見が変更することもある。また、事業所では、24時間体制で医師と連絡を取ることができています。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人家族等だけでなく職員かかりつけ医等の関係者とも話し合い方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応出来るようにしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	何かあればその都度ご家族に連絡をとり十分な説明を行い対応支援を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療関係者との連携をはかりながら支援し今後の変化に備えて検討や準備の体制が整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何かあればすぐに連絡し話をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修を受け、報告を行いながらみんなで学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練はできていない、流れ・準備はできている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ・インターネット・新聞にて最新情報入手を今まで以上に気にかけて取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員マスク着用、消毒手洗い徹底し、利用者来客者消毒の徹底、検温問診実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には話をし信頼関係を気づけるよう努めている。				現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、家族が来訪する機会は少なくなっている。コロナ禍以前は、事業所で行うクリスマス会やそうめん流しなどの行事には、全ての家族に参加を呼びかけて、少数ではあるが家族の協力を得ることはできていた。現在は、窓越しでの面会や、リモートでの面会希望に対応をしている。毎月、担当職員がお便りを書いて、利用者の身体状況等を伝えているほか、年4回「ゆうなぎ通信」を発行し、事業所の行事や異動などの報告をしている。また、ミニ便りに利用者の写真を添えて、送付することもある。さらに、面会時には職員から利用者の様子を伝えるなどの信頼関係づくりに努めているほか、受診や状況の変化などがあつた場合には、管理者からその都度電話連絡をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	今はリモート面会、窓越し面会しかできていないが以前は一緒に外出されたり居室で話をさせていた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	以前は行事に参加してもらっていたが今はできていない。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りにて様子・状態を伝えている。ゆうなぎ通信等でも日頃の様子・写真を送っている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様がよりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い、今後出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の異動、行事等通信にて伝えている。		○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	以前には家族会行事には案内をだし参加されるご家族もおられた。外出等もされていたが今はできていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者の状態に応じたリスクについてその都度説明を行いその人らしい暮らしを大切にしたい対応策を伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	面会時に状態を伝えるなど気軽に話し合える関係を気づいている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があつた時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は減っている。コロナ禍以前は、地域サロンを実施している地域住民が、おやつ作りやレクリエーションのボランティアとして訪問してくれていた。事業所では、地区の組内に加え、回覧板が回ってきて情報を得たり、耐震・地震ネットワークづくりに協力したりしている。また、地区の区長が代わり、少しずつ協力してもらえるようになってきている。さらに、事業所周辺で近隣住民に出会った場合には、あいさつや声かけをしている。加えて、事業所の隣には旧保育所の建物を活用した障がい者の就労継続支援事業所があり、連携を取ることができている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	行事等には参加はできていないが、園の周りで会った時にはあいさつ程度はしている。	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	外を歩かれている利用者があるときに地域の人たちが見守り声掛けをしてくれている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍のためできない。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声掛けあったりはするが立ち寄ってもらうことはコロナ禍の為できていない。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの為できていない。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内のスーパー利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は文面でのみの報告を行っている。	/	○	○	運営推進会議は、家族や民生委員、町議会議員、町担当者などの参加を得て、平日の夜間に開催している。また、参加メンバーから意見を募り、年度始めに年間の会議のテーマを決めて、避難訓練や救急救命講習、介護保険の説明などを実施している。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となり、参加メンバーや家族に報告をしている。地域性もあり、文書開催では、ほとんど意見は出されてない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況などを文面で報告している。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見があれば取り組みを行うようにしている。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	こちらから文面を提出している。	/	◎	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	委員さんや御家族にも郵送し、玄関先の棚に置いている為、いつでも誰でも見られるようにしている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいて利用者さんに関わりを持てるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内にわかるように掲示されている。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるようにしてもらっている。				2年前に代表者が交代し、毎月の職員会議に参加しているほか、事業所に来訪する機会もあり、職員と話しをすることも多い。代表者はフットワークも軽く、職員からの要望で新たな電化製品などを購入したり、Wi-Fi環境を整備してくれたりするなど、働きやすい環境づくりに努めてくれている。また、管理者は、全ての職員が事業所の理念や行動目標の達成に向け、職員会議の中で勉強会を実施したり、知りたい場合には書籍を貸し出ししたりしている。職員は外部研修に参加することもでき、事業所内で伝達研修をすることもある。さらに、年1回管理者は職員と個別面談を実施するほか、個別での面談や相談にも応じ、職員から意見を聞くことができている。職員も環境整備や希望休にも応じてくれ、働きやすいと感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	やりがいなど各自が向上心を持ち働けるよう職場環境整備に努めてもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しづつですが取り組んでもらっている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会等にて学び日常でも不適切なケアになっていないか話し合いを行い理解を深めている。				職員は、勉強会等で虐待防止等を学ぶ機会があるほか、職員間で話し合い、理解している。事業所には、身体拘束防止委員会があり、3か月に1回管理者を中心に、不適切なケアに当たらないかなど話し合いをしている。また、不適切なケアを発見した場合には、職員同士で注意し合えるようになってきているほか、場合によっては管理者に報告し、状況に応じながら注意喚起や話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	振り返り話し合いができています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアが見られる方もいるが職員同士では注意ができない人もいます。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会職員会等で話し合いにより正しく理解できるようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス、日々の業務内で話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望は出ていないと思うが、話し合いはその都度行うようにしている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会等で学び理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていきようにしたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルが作成されている。普段からどのようにしたらよいかの確認をしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的には行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	何かあればヒヤリハットをだし話し合い、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人一人の状態を理解し事故にならないよう検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	全職員の理解はできていないかもしれないが苦情があれば対応方法を話し合っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているが現在は活用されていない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。	/	/	○	日々の生活の中で、利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、利用者の様子を伝えたくて、意見や要望を聞いている。また、代表者も頻回に来訪して職員と話す機会があるほか、管理者は個別面談で意見を聞くほか、日常的に職員の相談にも応じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場にも足を運んでもらい直接聞く機会をつくってもらっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動している。	/	/	◎	

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組んでいる。外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画の取組み状況は、運営推進会議の中で報告をするとともに、職員や家族にも報告をしている。管理者は、結果報告に基づいて、目標達成計画なども職員間で話し合うことができています。コロナ禍の収束後には、取組み状況の確認などを家族などにモニターの協力を呼びかけるなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	勉強会を通して活かせるようにしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	その達成に向けて全体で取り組めるように話し合っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターはしてもらえていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議は行っていないが取り組みの結果を確認し報告を行っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				事業所では防災などのマニュアルを作成し、事務所に配置し、職員はいつでも確認できるようにしている。事業所では、消防署の協力を得ながら、年2回避難訓練を実施するとともに、地震や火災発生にも職員が対応できるように、今年度の途中から毎月確認や話し合いをするようになっていく。また、運営推進会議に併せて、避難訓練や救急救命講習などを実施したり、実際の訓練では、2階から利用者の昇り降りの避難体験をしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練の参加協力をしたり、事業所の隣にある障がい者の就労継続支援事業所と協力することもできていた。さらに、地区の区長が交代し、管理者は地域とのさらなる連携を検討している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回以上訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ禍になってからは参加はしてもらえていないが今後も連携は図っていききたい。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	参加出来るようにしていきたい。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		×	○	事業所では、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。地域サロンを実施する地域住民などのボランティアの受け入れにも協力をしている。また、県地域密着型サービス協会に加入して他の事業所と連携したり、町行政等との連携・協力を努めたりしている。さらに、町にはグループホーム連絡会があり、リモート機能を活用して話し合うこともあったが、現在は開催されていない。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	コロナ禍の為活動は出来ない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちのネットワークを広げられるようにしていきたいができていない。			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3893600027
事業所名	グループホームゆうなぎ
(ユニット名)	北棟
記入者(管理者)	
氏名	向成 良江
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 21 日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔で穏やかなりし！</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○利用者一人一人の日々の様子等を具体的な内容で個別に記録していく。          → 記録の書き方の勉強会を行いながら記録してもらうように伝えている。          ○利用者一人一人のプライバシー等に配慮しながらの介助を行っている。          → おかしいと思うことは職員同士で声掛けを行うようにしているが、職員の意識が足りなく配慮できていない時もみられる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、以前中学校の寮として活用されていた建物を改修して使用している。事業所の隣には、障がい者の就労継続支援事業所があり、園庭の避難時等の活用の話し合いをしている。管理者は、事業所理念や行動目標の実現に向け、職員会議の中で勉強会を実施したり、日々の業務の中で職員と話し合いをしたり、利用者や家族の要望にも柔軟に対応するなど、利用者が笑顔で、穏やかな生活を送れるよう支援している。また、現在のコロナ禍において、外出や面会制限があるものの、日常的に敷地内の散歩や少人数でドライブをしたり、窓越しやリモート面会にも対応したり、多くのレクリエーションを取り入れたりするなどの工夫をしている。さらに、2年前に交代したフットワークの軽い代表者は、毎月の職員会議に参加するほか、頻りに事業所に来訪して職員と話しをする機会も多く、職員からの要望で新たな電化製品などを購入したり、Wi-Fi環境を整備してくれたりするなど、働きやすい環境づくりに努めてくれている。Wi-Fi環境の整備により、利用者はユーチューブを見ながら体操する機会も増え、利用者の心身機能の維持にもつながっている。加えて、管理者は年1回の職員と個別面談を実施するほか、個別での面談や相談にも応じ、職員から意見を聞くことができおり、職員も環境整備や希望休にも応じてくれるなど、働きやすいと感じている。</p>
----------------------------------	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話で聞くようにはしているが全職員が全員にはできていない人もいる。	○	/	◎	日々の生活の中で、担当職員を中心に利用者から思いや意向の聞き取りをしている。要介護度の高い利用者も話すなどの意思表示をすることができ、思いなどを確認している。また、入居時や電話連絡時などを活用して、家族から希望などを聞くことができている。聞き取った内容は、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などのアセスメントシートに記載し、把握している。現在のコロナ禍において、行事や外出する機会が減り、職員は利用者とかかわる時間が増え、話しや相談をする機会を活用して、新たな情報を聞くことも多い。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族から聞いたり日々の関わりから察し検討するようにはしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時、面会時等に話を聞くようにはしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	D-1・D-2・C-1-2シートを利用し本人の思いを聞いて記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員によっては思い込み決めつけになっていることもあるが本人の思いを大切に関わりをもってしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前にケアマネ担当の方、家族から聞き取りは行っている。	/	/	◎	入居前に、センター方式のアセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から生活歴やできることなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所や介護施設、病院のほか、介護支援専門員から情報を得ることもある。家族とのかかわりが希薄になっていることもあり、事前に聞いた内容が違い真逆の場合もあり、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞いたり、観察などから確認したりすることもある。また、アセスメントシートの情報は、3か月に1回の介護計画の見直し時に内容を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	D-1・D-2・C-1-2シートを利用し話を聞き、関わりながら現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中から把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何かについて職員間で送りをしみんな考えている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人一人の状態の記録を共有することで把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送りカンファレンス等で話し合いは行っている。	/	/	◎	毎月、事業所全体で夜間帯に職員会議を開催するほか、別の日にユニット毎にカンファレンスを実施している。退院時など必要に応じて、管理者等とその日の出勤職員で話し合いをすることもある。また、月1回の医師の往診時に意見を聞くほか、家族には電話連絡時や来訪時に意見を聞いて職員間で話し合い、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。また、課題解決ができない場合もあり、職員が事前に管理者に対応を伝えたくて試行し、その結果も報告するなど、課題解決に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人が何を求めているかを関わりの中から引き出しカンファレンス等で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	課題を明らかにしそれに沿ったケアを全員はできていない職員もいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の視点に立った内容にしている。				担当職員は、利用者から「出かけたがたい、外食したい」などの希望を聞くほか、家族から「お任せします、受診介助の依頼」などの意見を聞き、介護計画に反映している。また、医師や看護師などの意見を踏まえて、ユニット毎のカンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人家族と話し合い意向をもとに作成している。			○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その時に応じてその方にあった暮らしをさせている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	コロナ禍のため関わっていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録の中にもプランを取り入れ職員間で共有できるようにしている。				職員はカンファレンスの中で、介護計画の内容を話し合うほか、個別の介護記録の上部に介護計画や留意事項を印字し、記載時に確認できるようにしている。また、介護記録は24時間で時間帯毎にサービスの実施内容のほか、本人の状態や言動、特記事項等を記録し、発した言葉などの詳細まで記載されている。職員の気づきやアイデアも出され、介護者の考察等に記録を残したり、カンファレンス等で伝えたりしている。中には記録が苦手の職員もおり個人差が生じているため、継続して記録の書き方の勉強会を実施している。さらに記録には、日誌や個別の介護記録など、詳細な記録の重複部分が見られるため、重複した記載の有無の必要性を職員間で検討したり、様式自体を簡素化したりするなど、職員の負担軽減につながることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに添ったケアを実践し記録を取ることで日々の支援につながっている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	具体的内容を個別に記録し日々の暮らしの様子がわかるよう記録しているが職員の中ではできていない職員もいる。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に記録し職員間で共有はしているが完全にはではない。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	カンファレンスで見直しを行っている。				介護計画は、3か月に1回見直しをしている。毎月職員会議やユニット毎に実施するカンファレンスの中で、担当職員を中心に利用者の現状を確認し、職員間で話し合いモニタリングをしている。あまり変化のない利用者については毎月の現状確認はしていない。また、介護計画の更新時には、アセスメントシートの情報も更新し、新たな介護計画の作成につなげている。さらに、退院時には計画を1か月で見直すほか、大きな変化が見られた場合には、その都度計画を見直し、現状に合わせた介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員間で状態報告を行い確認している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後状態変化時には現状に添った計画の見直しを行っている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	何かあるときにはその都度話し合いを行っている。				事業所全体で、日程調整の上で夜間に、代表者も参加して職員会議を開催し、職員間で話し合いをしている。夜勤職員以外は会議に参加することができており、参加できなかった職員には、後日会議録を確認してもらうほか、口頭でも伝えている。また、利用者の退院時など、必要に応じて、その日の出勤職員と管理者等を交えて、話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	みんなの意見を聞けるように声掛け等を行っているが会議の場ではなかなか意見が聞けていない。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	ほぼ全員参加できている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録を残すことにより全員に伝わっている。口頭でも伝えている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	伝達事項欄に記入口頭で伝えることにより共有できている。				朝・夕の申し送りをしているほか、日誌等を出勤時に職員は確認し、確認後には押印して、確実な伝達につなげている。また、日誌の下の部分には、伝達事項の欄があり、重要事項の記載があり、出勤時にも口頭で確認をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕の申し送り順に出勤者にも伝えることにより伝達できている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛け会話の中からしたいことを把握し実践に結び付けている。	/	/	/	職員は、利用者から「外出・外食をしたい、パズルをしたい」などのしたいことを聞き、可能な範囲で対応している。日頃から職員は、「入浴の準備をしましょう、食べたい物はないですか」などの声をかけ、利用者と一緒にしたり、自分で選択したりするなど、決定できる支援に努めている。また、レクリエーションや体操など、何か一緒にする時は全体での声かけのみに留まることなく、利用者一人ひとりに職員が声をかけることで、利用者の顔が微笑みのある表情に変わったり、「そんなんせん」と普段参加しなかった利用者が参加するようになったりするなど、雰囲気づくりをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	まず何をしたいかどうしたいか等の声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できるような声掛けを行いやりたいたいことをしてもらうようにしているが一部の職員はできていない日もみられる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	ご自分のペースで生活されているがタイミングが難しい時間帯もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔が見られるような声掛けを心掛けている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情から読み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会等で学び、声掛け等注意している。	○	○	○	職員会議時に、毎月の勉強会を基本として開催しており、人権や尊厳などをテーマに取り上げて、職員は学んで理解している。前回の目標達成計画に、「利用者一人ひとりのプライバシー等に配慮した介助」を掲げ、職員は意識し利用者へ声かけをするほか、居室の入室時のノックや声かけができるように改善され、気になることがあれば注意し合うことができるようになってきている。また、適切な対応ができていない場合には、管理者から該当職員にさりげなく伝えたり、職員会議等を活用して、全ての職員に注意喚起するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	さりげない言葉かけをし心掛けて対応しているが職員によってはできていない日もある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けを行い配慮しながら行っている職員が増えている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室に入る前にはノックをし声掛けを行って入るようにしているができていない職員もいる。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報等に十分気を付け理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一緒に何かしてもらったことには感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	調理や縫い物などを手伝ってもらった場合には、職員から「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝えている。レクリエーション時に、パズルなどができない利用者、他の利用者が、「こうやってやるんよ、一緒にやるよ」と声をかけて一緒にやったり、歩行が困難な利用者、「急に立たれんよ、大丈夫」などの気づかいをするなど、支え合う場面も見られる。また、他の利用者の居室に間違えて入ってトラブルになりそうな場面では、職員が「ごめんね」と伝えて、間に入って話しを聞くなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	トラブルのないように気を付けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関わりが持てるように作業を一緒にしてもらったりレクをするなどの支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになりそうときには間にはいるようにし特に大きなトラブルは見られていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	把握できていないことが多い。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	美容室に行かれていた方もおられる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お墓参り等ご家族と出かけている方もおられるが、今はできない状態となっている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ禍の為気軽に誰でもとはいかないがリモートで面会されている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	今はできていないが園庭散歩を行っている。	×	○	○	現在のコロナ禍において、外出する機会は減っているものの、日常的に敷地内を散歩したり、中庭にある小さな畑で野菜づくりをしたり、少人数で車から降りずにドライブをしたりするなど、気分転換ができるよう努めている。コロナ禍以前は、お弁当を持って花見に出かけたり、重度な利用者も一緒に車でドライブして様々な場所に出かけたりすることができていた。また、車いすの利用者の方が、屋外に出て散歩や外気浴をすることが多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援はできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態を見ながら皆と同じように過ごせるように取り組んでいる。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望把握し、家族地域の人々と協力しながらはできていないが個別で出かけられることもある。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	一人一人にあった支援に努めるようにしているが一部の職員がまだできていない。				毎日のラジオ体操のほか、ユーチューブを見ながら、利用者と一緒に見よう見まねで、様々な音楽体操を取り入れ、心身機能の維持に努めている。前回の訪問調査時から、寝たきりから要介護度が改善した利用者は、継続して近距離であれば自ら歩行できる状態を保つことができていた。また、利用者自身でできることは自分でしてもらい、職員は見守りや待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	その人にあった状態を把握し日常生活の中での維持向上が図れるよう努めているが全職員が取り組めていない。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	危険でないことには見守りを行い一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	声掛けや会話の中から楽しみごとや役割を把握している。				洗濯物干しやたたみ、調理、お盆拭き、テーブル拭きなどの役割は、利用者同士が取り合いになることがあるので、順番に担ってもらっている。男性利用者も、ゴミ出しや掃き掃除を進んでしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	食事の準備片付けなど出来る事をやってもらっている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	できていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援はできている。				以前は化粧をしていた利用者もいたが、乳液や髪にピン止めをつけたりする程度となってきている。男性利用者は、声かけや準備で、自ら髭剃りをする利用者もいる。要介護度の改善した利用者は、着たい物を購入しておしゃれを楽しむことができている。また、食べこぼしなどの汚れが見られる場合には、トイレに行った時に着替えてもらったり、「汚れたままでいい」と言う利用者には、夜の着替え時に交換して、洗濯をしたりしている。また、職員が同行して理美容室に出かけて、身だしなみを整えたり、重度になっても着替えなどの身だしなみの支援ができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自分の好きなようにされている方もおられる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考え本人の思うように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その人らしさを大切に季節にあった支援をしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、髪や肌をきれいに保てる工夫や支援を行っている。	△	プライドを大切にできたり髪や肌をきれいに保てる工夫や支援を行っている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	希望される店に行かれていた方がコロナ禍のため行けないこともある。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	身だしなみに気を付け支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				各棟の職員が、1年おきの順番で献立を作成している。利用者の食べたい物などを聞きながら、職員は1週間分の献立を立て、まとめて買い物に出かけている。コロナ禍以前は、利用者も一緒に買い物に行くことができていたが、現在は自粛している。各ユニットで2品のおかずづくりなどの分担をし、利用者に調理やお盆拭きなどを手伝ってもらいながら職員が調理をしている。利用者の状態に応じた、刻みなどの食事形態にも対応している。また、茶碗や湯呑みなど、利用者の使い慣れた物を使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、介助や声かけをしながら、同じ物を食べることができている。また、日中もリビングを兼ねた食堂で過ごすことが多いため、重度な利用者も調理の音や匂いを感じることができている。栄養士からのアドバイスを受けることはできていないものの、職員間で話し合い、バランスが取れた食事となるよう配慮している。さらに、誕生日には、いなりやちらし寿司など、利用者の食べたい物を提供することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	できる方には調理片づけを一緒にしてもらっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒にしてもらったら感謝の言葉を伝えるようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人家族から聞き取り把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節の野菜等を使ったり郷土料理を出すなどの工夫をしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	その人に合った食事形態にしている。その都度見直しもやっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものがあったものの使用をされている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も同じメニューと一緒に食べながら見守り介助を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	日中は食堂でみんなで過ごしている為伝わっていると思われる。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量をチェックし食べられない方にはほかのものと対応を行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分補給の回数を増やすことにより脱水予防を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は職員が立てている。バランスがとれた献立になるよう配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	新鮮な食材を使い衛生管理に努め食中毒の予防に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会・研修等を通して理解している。				年1回勉強会のテーマに取り上げて、職員は口腔ケアの重要性について学んでいる。毎食後、利用者は食堂にある洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアをしている。また、1日3回の口腔ケア時には、全ての利用者の口腔内の状況のチェックをすることができている。また、義歯の不具合や、「痛い」などの訴えがある場合には、歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	一日三回食後のチェックを行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	勉強会を通して正しく学び日常の支援に繋げている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できない方には声掛け介助を行っている。一人一人声掛けを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後口腔ケアを行って頂き清潔に保たれている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	すぐに歯科受診の対応をしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで座っての排泄を行っている。				介護記録の「尿・便」の欄にチェックし、職員は排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を基本として、職員は声かけや誘導をしながら、おむつからリハビリパンツ、リハビリパンツからパッド等に改善された利用者もいる。おむつなどの排泄用品の使用時には、職員間で適性を話し合うほか、利用者や家族と話し合いながら使用している。また、重度な利用者には、2人体制で排泄介助をする場合もある。さらに、事業所では体調不良等で服薬をしている利用者もいるものの、体操や散歩などで身体を動かしたり、乳製品を摂取したりすることで、便秘等の防止にも努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	理解できていない職員もいる				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表を記入することで把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	食事前後にトイレに座る習慣を実践している。その都度対応を行っている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	散歩をしたり乳製品を取り入れるなどの工夫をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録をとることで一人一人のパターンを把握できている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	御家族ご本人と話し合いながら支援を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の状態に合わせて使い分けをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品を摂ったり、散歩、体操、体を動かす支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	ご自分のペースで入浴されている方もおられる。		◎	○	各棟で毎日3人ずつ午後から入浴することができ、利用者は週に2~3回入浴することができている。以前は、夜間の入浴希望の利用者がおり、対応することもあったが、現在希望する利用者はいない。湯の温度や湯船に浸かる時間など、利用者の希望に対応し、ペースを合わせた入浴支援ができている。中には、自分のお気に入りのシャンプーやボディソープを使用している利用者もいる。また、利用者1対1となる入浴時には、利用者の意向を聞くことも多い。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人一人にあった入浴方法を支援し安心して入浴行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず話をして気持ちを良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いをせず話をしたり日を変えて対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い状態を確認し入浴後には水分補給をもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録を取り睡眠パターンの把握ができています。				介護記録の24時間の介護内容の記載欄に睡眠状況を記録し、パターンを把握している。以前寮として使用していた建物を改装した事業所は、利用者の状況確認に時間を要するところもあるため、夜勤職員は1時間に1回、各居室の見回りをしている。トイレにはセンサーを取り付け、使用時にはセンサーが感知し、職員が分かるよう工夫している。また、日中の作業レクリエーションや体操などの活動量を増やし、利用者が夜間安眠できるよう努めているものの、医師と相談しながら眠剤等を服用している利用者もいる。中には、昼夜とも丸1日眠らない利用者もあり、夜間に自室を間違えて他の利用者の居室に入ってしまうこともあるため、食堂でテレビを見てもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れるような日中の取り組みを行っている。作業レク等。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師との相談・連携をし支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に居室に行き休まれている方もおられる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話をかけてあげ話をされている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ない方でしようとする方には手助けを行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙を渡し読んでもらったり読めない方には読んで伝えたりするが返事は出されることはない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会時等話をされている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解は出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	今は移動販売の利用しかできていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	近くにはお店がないためスーパーに職員と行っているが今は行けていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族とも相談をしたうえで施設内での金額は決めてもらっているが、自分で使えるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	面会時に話をしその都度本人と話し合いもしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納長のサインをもらい報告の方法などルールを明確にしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	御家族ご本人の希望に沿うような対応を行っている。	◎	◎	現在コロナ禍において、外出や外食の要望には応えられない部分があるものの、事業所では可能な範囲で、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、町内や隣市への病院受診は、職員が同行受診の対応をしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	コロナ禍のため自由に出入りをご遠慮してもらっている。	◎	◎	○	玄関の入り口にはベンチを配置している。周囲には小さな菜園や自動販売機を設置している。今年は町内で七夕まつりの開催がなく、利用者に雰囲気味わってもらうため、玄関には大きく「ゆうなぎ」の文字や飾りを作成し、飾っている。また、玄関にはコロナ禍の対策のため、自動検温装置を設置している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な馴染みのあるものを置くことにより住まいとしての心地よさがある。	○	○	○	事業所は、以前中学校の寮として活用されていた建物を改修している。共用スペースには限りがあるものの、日中、利用者は食堂を兼ねたリビングで、レクリエーションやユーチューブを見て体操などをしながら過ごすことが多くなっている。廊下には、長いすや車いすが置かれているほか、壁には利用者と一緒に作ったちぎり絵や季節の飾り付けなどが飾られている。また、利用者と一緒に清掃を行うほか、適度な換気もされ、清潔保持をしている。また、水槽で小さな亀を飼育している。屋外には小さな菜園があり、利用者と一緒に野菜などを育てている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	時間で換気をしたり、掃除等も時間を見つけて行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとに貼り絵等を利用者さんと一緒にして壁に貼っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	いつでも座れるようにベンチがいくつか色々なところに置いてありそこに座られている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテン、ドアにて仕切られてある。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前に使用されていたお茶碗湯呑を持ってこられたり写真を飾られている。	○		◎	居室には、洗面台やエアコン、ベッドが備え付けられている。馴染みの物などを持ち込むことができ、タンスやテレビ、仏壇などを持ち込み、利用者に合わせて居室づくりをしている。1日ごとに利用者と一緒に清掃をしている。また、頻繁にベッドの配置などの模様替えをする利用者もおり、職員は快く対応をしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室トイレ等場所がわかるように表示がしてあり、それを見ながら目的の場所に行かれている。			○	利用者にトイレなどが分かりやすいよう表示しているほか、居室は遠くから見ても分かりやすいように、三角の立体で名前を表示している。また、食堂を兼ねたリビングには、ハサミなどの危険な物は置かず、目につく場所に家庭にあるような、テレビのリモコンやティッシュなどを置いている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険なものは目につかない場所に置き、必要な時は職員が見守り声掛けを行っている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	家庭に置かれているものが目に付くところに置いてあり自由にとれるようになっている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関居室等自由に出入りできるようになっている。	◎	○	○	事業所では、日中玄関を施錠しないことが通常となっている。コロナ禍で面会制限があるものの宅配などの業者が普通に入ってくるため、玄関前にはバーを置いて周知している。玄関内にはセンサーが設置されており、利用者が外出しようとする場合には、職員は分かりやすくなっている。家族等には、日中玄関を開放していることを説明し、理解を得ている。また、夜間は防犯のため、18時から7時まで施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	センサーが取り付けられてありセンサーの音が鳴ると確認をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	いつでも見れるようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行ったり手を握ったりして状態を確認し記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	何かあれば主治医や毎週ナースチェック時に相談できている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでのかかりつけの病院を受診されている方もおられる。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	御家族ご本人の希望されるように支援されている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院へ受診したり何かあればご家族に連絡をして状態報告をその都度行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診時にわかる範囲で伝えるようにしている。入院しても病院と連携を取り状態を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	相談員さんたちと関係づくりしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	何か変わったことがあればナース時に相談をしドクターに伝えてもらい支持を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医院にいつでも相談できる体制になっているため、連絡しすぐに対応できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	月一回の往診、週一回の看護師チェック受けることで早期発見にもつなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋がいつでも見れるようになっているので確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	日付名前いつの薬かを声に出して確認し服薬してもらっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	何かあればドクター・薬剤師にすぐ相談し確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態変化の記録を残し、相談し状態の報告を行っている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に応じた用紙に記入することにより共有ができています。	/	/	/	事業所には、「ゆうなぎに於ける看取り指針」があり、入居時に利用者や家族に細かく説明し、現時点での希望や同意を得ている。重度化やご飯が食べれないなどの状態になった場合には、利用者や家族、医師などの関係者を交えて話し合い、方針を共有している。事業所として、多くの看取り介護を経験しているものの、家族等が看取りを希望していても、いざという時には病院搬送等に意見が変更することもある。また、事業所では、24時間体制で医師と連絡を取ることができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人家族等だけでなく職員かかりつけ医等の関係者とも話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	電話、メールに連絡したらすぐに対応出来るようにしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	何かあればその都度ご家族に連絡をとり十分な説明を行い対応支援を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療関係者との連携をはかりながら支援し今後の変化に備えて検討や準備の体制が整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何かあればすぐに連絡し話をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修を受け、報告を行いながらみんなで学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練はできていない、流れ・準備はできている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ・インターネット・新聞にて最新情報入手を今まで以上に気にかけて取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	学校、病院、施設等から情報を得て予防対策等対応出来るようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員マスク着用、消毒手洗い徹底し、利用者来客者消毒の徹底、検温問診実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には話をし信頼関係を気づけるよう努めている。				現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けており、家族が来訪する機会は少なくなっている。コロナ禍以前は、事業所で行うクリスマス会やそうめん流しなどの行事には、全ての家族に参加を呼びかけて、少数ではあるが家族の協力を得ることはできていた。現在は、窓越しでの面会や、リモートでの面会希望に対応をしている。毎月、担当職員がお便りを書いて、利用者の身体状況等を伝えているほか、年4回「ゆうなぎ通信」を発行し、事業所の行事や異動などの報告をしている。また、ミニ便りに利用者の写真を添えて、送付することもある。さらに、面会時には職員から利用者の様子を伝えるなどの信頼関係づくりに努めているほか、受診や状況の変化などがあつた場合には、管理者からその都度電話連絡をしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	今はリモート面会、窓越し面会しかできていないが以前は一緒に外出されたり居室で話をさせていた。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	以前は行事に参加してもらっていたが今はできていない。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りにて様子・状態を伝えている。ゆうなぎ通信等でも日頃の様子・写真を送っている。			○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	いつでも気になる事や聞かれた事には伝えていっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様によりよく暮らせるよう関わり方についても話し合い、今後出来るように支援していきたい。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の異動、行事等通信にて伝えている。			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	以前には家族会行事には案内をだし参加されるご家族もおられた。外出等もされていたが今はできていない。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者の状態に応じたリスクについてその都度説明を行いその人らしい暮らしを大切にしたい対応策を伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に状態を伝えるなど気軽に話し合える関係を気づいている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時きちんと説明をおこなっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	説明をし、相談にのりながら支援をしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	金額の変更があつた時には文章でお知らせしている。きちんと同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、地域住民と交流する機会は減っている。コロナ禍以前は、地域サロンを実施している地域住民が、おやつ作りやレクリエーションのボランティアとして訪問してくれていた。事業所では、地区の組内に加え、回覧板が回ってきて情報を得たり、耐震・地震ネットワークづくりに協力したりしている。また、地区の区長が代わり、少しずつ協力してもらえるようになってきている。さらに、事業所周辺で近隣住民に出会った場合には、あいさつや声かけをしている。加えて、事業所の隣には旧保育所の建物を活用した障がい者の就労継続支援事業所があり、連携を取ることができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	行事等には参加はできていないが、園の周りで会った時にはあいさつ程度はしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	外を歩かれている利用者があるときに地域の人たちが見守り声掛けをしてくれている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍のためできない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽に声掛けあったりはするが立ち寄ってもらうことはコロナ禍の為できていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの為できていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援していきたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	町内のスーパー利用させてもらう時には前もって連絡し、美容室、交番の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は文面でのみの報告を行っている。	○	/	○	運営推進会議は、家族や民生委員、町議会議員、町担当者などの参加を得て、平日の夜間に開催している。また、参加メンバーから意見を募り、年度始めに年間の会議のテーマを決めて、避難訓練や救急救命講習、介護保険の説明などを実施している。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となり、参加メンバーや家族に報告をしている。地域性もあり、文書開催では、ほとんど意見は出されてない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	毎回テーマを決めて行っている。利用者様、職員の報告は行っている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容とその取り組み状況などを文面で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見があれば取り組みを行うようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	こちらから文面を提出している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	委員さんや御家族にも郵送し、玄関先の棚に置いている為、いつでも誰でも見られるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に基づいて利用者さんに関わりを持てるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先、事業所内にわかるように掲示されている。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けられるようにしてもらっている。				2年前に代表者が交代し、毎月の職員会議に参加しているほか、事業所に来訪する機会もあり、職員と話しをすることも多い。代表者はネットワークも軽く、職員からの要望で新たな電化製品などを購入したり、Wi-Fi環境を整備してくれたりするなど、働きやすい環境づくりに努めてくれている。また、管理者は、全ての職員が事業所の理念や行動目標の達成に向け、職員会議の中で勉強会を実施したり、知りたい場合には書籍を貸し出ししたりしている。職員は外部研修に参加することもでき、事業所内で伝達研修をすることもある。さらに、年1回管理者は職員と個別面談を実施するほか、個別での面談や相談にも応じ、職員から意見を聞くことができている。職員も環境整備や希望休にも応じてくれ、働きやすいと感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ゆうなぎの目標が達成できるよう職員が働きながらスキルアップできるように個人個人と話す時間を作っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	やりがいなど各自が向上心を持ち働けるよう職場環境整備に努めてもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着サービス協会や地域の連絡会に参加し他の事業所との交流にも取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	軽減するための工夫を少しづつですが取り組んでもらっている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会等にて学び日常でも不適切なケアになっていないか話し合いを行い理解を深めている。				職員は、勉強会等で虐待防止等を学ぶ機会があるほか、職員間で話し合い、理解している。事業所には、身体拘束防止委員会があり、3か月に1回管理者を中心に、不適切なケアに当たらないかなど話し合いをしている。また、不適切なケアを発見した場合には、職員同士で注意し合えるようになってきているほか、場合によっては管理者に報告し、状況に応じながら注意喚起や話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	振り返り話し合いができています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアが見られる方もいるが職員同士では注意ができない人もいます。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気を付けるようにしている。声をかけたり話を聞くようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会職員会等で話し合いにより正しく理解できるようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会、カンファレンス、日々の業務内で話し合いを行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望は出ていないと思うが、話し合いはその都度行うようにしている。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会等で学び理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談があれば支援を行っていきようにしたい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要な時には連絡を取り相談している。今後も相談や協力依頼ができるようにしていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルが作成されている。普段からどのようにしたらよいかの確認をしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的には行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	何かあればヒヤリハットをだし話し合い、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人一人の状態を理解し事故にならないよう検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	全職員の理解はできていないかもしれないが苦情があれば対応方法を話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ちょっとしたことでもすぐに職員に伝え改善するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対し速やかに対応し納得を得ながら話し合いと関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置しているが現在は活用されていない。日頃の関わりの中でさりげなく聞いたり言葉や表情、態度から思いを察するようにしている。気づいたことは職員間で話し合い、ケアに活かすようにしている。			○	日々の生活の中で、利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、利用者の様子を伝えたくて、意見や要望を聞いている。また、代表者も頻回に来訪して職員と話す機会があるほか、管理者は個別面談で意見を聞くほか、日常的に職員の相談にも応じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時等で意見や要望、苦情を聞く機会をつくっている。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	公的な窓口の情報提供を行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場にも足を運んでもらい直接聞く機会をつくってもらっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	いつも話を聞く姿勢であり利用者本位の支援を考え行動している。				

愛媛県グループホームゆうなぎ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組んでいる。外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画の取組み状況は、運営推進会議の中で報告をするとともに、職員や家族にも報告をしている。管理者は、結果報告に基づいて、目標達成計画なども職員間で話し合うことができています。コロナ禍の収束後には、取組み状況の確認などを家族などにモニターの協力を呼びかけるなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	勉強会を通して活かせるようにしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	その達成に向けて全体で取り組めるように話し合っている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニターはしてもらえていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	会議は行っていないが取り組みの結果を確認し報告を行っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成している。いつでも見られるようにしている。				事業所では防災などのマニュアルを作成し、事務所に配置し、職員はいつでも確認できるようにしている。事業所では、消防署の協力を得ながら、年2回避難訓練を実施するとともに、地震や火災発生にも職員が対応できるように、今年度の途中から毎月確認や話し合いをするようになってきた。また、運営推進会議に併せて、避難訓練や救急救命講習などを実施したり、実際の訓練では、2階から利用者の昇り降りの避難体験をしている。コロナ禍以前は、地域の防災訓練の参加協力をしたり、事業所の隣にある障がい者の就労継続支援事業所と協力することもできていた。さらに、地区の区長が交代し、管理者は地域とのさらなる連携を検討している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に二回以上訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検を行い、非常用食料、備品、物品を準備している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナ禍になってからは参加はしてもらえていないが今後も連携は図っていきたい。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	参加出来るようにしていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	取り組みされていない。今後取り組めるようにしていきたい。				事業所では、地域住民から相談があった場合には快く対応をしている。地域サロンを実施する地域住民などのボランティアの受け入れにも協力をしている。また、県地域密着型サービス協会に加入して他の事業所と連携したり、町行政等との連携・協力を努めたりしている。さらに、町にはグループホーム連絡会があり、リモート機能を活用して話し合うこともあったが、現在は開催されていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	何かあれば相談、支援を行えるようにしている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	コロナ禍の為活動は出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	できていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	イベントや集まりにも参加したり様々な人たちとのネットワークを広げられるようにしていきたいができていない。			○	